

令和 7 年 9 月 30 日
日本工学院八王子専門学校

令和 7 年度（2025 年度）学校関係者評価結果

令和 7 年度第 1 回学校関係者評価委員会は、令和 7 年 9 月 25 日に開催され、令和 6 年度の自己評価結果をもとに、教育理念、学校運営、学生支援など多岐にわたる項目について意見交換が行われた。

委員からは、教育理念「若きつくりびと」の実効性、Vision Craft をはじめとする学科横断型教育の先進性、地域連携の取り組みに対して高い評価が寄せられた。

一方で、教育環境、学生支援体制、防災対応など一部の項目では、自己評価と委員評価に差が見られ、外部視点からの具体的な改善提案が示された。これらの指摘は、今後の教育改善に向けた重要な指針となる。主な委員の発言は以下の通り。

【教育理念・目標】

「若きつくりびと」の育成理念は、教育活動全体に通底する指針として機能しており、三つの力（考える力・やり抜く力・責任感）を育む方針が明確に示されている。校長からは、理念が単なる標語ではなく、教職員の行動や学生指導の根幹に位置づけられているとの説明があり、委員会としてもその浸透度と実効性を高く評価した。今後は、学生自身が理念を内面化し、自らの言葉で語れるような教育設計や、現場教職員の意見を反映した将来構想の策定が望まれる。

【学校運営】

教職員が安心して長期的に勤務できる環境整備は、教育の質を支える基盤であるとの認識が共有された。ワークライフバランスの確保、メンタルヘルスケア体制の整備、個人事情に配慮した柔軟な休暇制度の検討が求められている。勤怠管理システム「COMPANY」や目標管理シートの導入は、業務の可視化と透明性向上に寄与しており、他校に先駆けた取り組みとして評価された。業務負担軽減に向けては、人員増加や IT 化の推進も有効な手段として提案された。

【教育活動】

Vision Craft などの学科横断型プロジェクトは、創造力・協働力・課題解決力を育む先進的な取り組みとして高く評価された。特に、異なる専門性を持つ学生が協働することで、実社会に近い課題解決の経験が得られる点が注目された。放送業界では技術の多様化が進み、従来は放送局社員が担っていたマスター・回線管制・配信・CG などの業務がプロダクションに委託されるようになっており、これらの分野への認知拡大と人材供給が期待されている。単位制導入を活用し、学科を越えた履修設計の柔軟化や、業界横断的なスキル育成の仕組みづくりが望まれる。

【学修成果】

技術力だけでなく、対人スキルやコミュニケーション能力の育成が重要視されており、教育段階での意識的な指導が求められている。企業と学生のマッチング精度を高めることが、就職後の定着率向上に直結するとの指摘があり、進路指導の質的向上が期待される。地元企業との連携強化により、地域での就職希望者への支援が可能となり、学生の活躍の場を広げることができる。また、卒業生の活躍事例（例：プロレス興行で活躍するリングアナウンサー）が SNS 等で発信されていることから、学校パンフレットや広報資料において、こうした実績を積極的に紹介することで、進路の多様性と将来展望を具体的に示す工夫が求められる。

【学生支援】

通信制高校出身者や留学生など、多様な背景を持つ学生が増加する中で、個別支援体制のさらなる強化が必要とされている。留学生については、日本語能力に大きな個人差があり、学科によって求められる言語レベルも異なる（例：自動車整備科では専門用語の理解が困難）。放課後の日本語講座への参加が難しい学生も多く、アルバイトとの両立が学習の妨げになっている。日本語教育を授業時間内に組み込む工夫や、企業と連携した支援体制の構築、日本人学生との交流促進が提案された。ミャンマーからの留学生増加については、母国の政治的混乱や情報網の強さ、日本の安全性が主な要因とされており、今後の対応方針の明確化が求められる。校友会による在校生支援の意向も示されており、卒業生とのつながり強化が期待される。

【教育環境】

校舎の老朽化が進行しており、長期的な設備更新計画の策定と実行が急務とされている。特に教育活動の基盤となる施設については、定期的な点検と計画的な修繕が不可欠である。PFOS 泡消火剤流出事案への対応は迅速かつ適切であったが、防災体制については「整備されているか」ではなく「機能しているか」を基準に評価すべきとの指摘があった。昨今の異常気象や震災リスクを踏まえ、防災専門家の助言を取り入れた BCP（事業継続計画）の見直しと、それに基づく防災訓練の実施が推奨された。建築コストの高騰（1.5～2 倍）を踏まえ、修繕計画の再検討と優先順位の明確化が必要である。

【社会・地域貢献】

地域企業との交流強化により、学生の活躍の場を広げる可能性がある。大手企業との連携だけでなく、設立 10 年以上の中小企業との協働を通じて、地域に根ざした実践的な学びの機会を提供することが望まれる。地元イベントでの卒業生の活躍が SNS 等で発信されている事例もあり、広報戦略として積極的に活用することで、入学希望者や在学生に対して「どのような未来が拓けるのか」という具体的なイメージを提示できる。

評価項目	適切：4、ほぼ適切：3、 やや適切：2、不適切：1	備考
1. 教育理念・目標	4	平均 3.9
2. 学校運営	4	平均 3.9
3. 教育活動	4	平均 4.0
4. 学修成果	4	平均 3.9
5. 学生支援	4	平均 3.9
6. 教育環境	3	平均 3.3
7. 学生の受入れ募集	4	平均 3.9
8. 財務	4	平均 4.0
9. 法令の遵守	4	平均 4.0
10. 社会貢献・地域貢献	4	平均 4.0

本評価を通じて、貴校が掲げる教育理念と各種取り組みに対する理解を一層深める機会となった。教育環境の項目では、施設の老朽化に関する指摘を踏まえ、自己評価と委員評価に一部差異が見られた。これについては、早急な検証と改善への取り組みを望む。

教育の質向上に向けた継続的な努力に敬意を表するとともに、今後のさらなる発展を期待する。

以上

令和7年9月30日

日本工学院八王子専門学校
校長 中村 英詞

令和6年度 学校関係者評価委員会において、本校の学校評価に関するご討議を賜り、誠にありがとうございました。

委員会でのご意見・ご助言をふまえ、以下の5点について重点的に検討を進めてまいります。

1. 本校が掲げる教育理念「若きつくりびと」は、三つの力（考える力・やり抜く力・責任感）を育む指針として教育活動に浸透しており、委員の皆様からも理念の実効性と学生への定着について高い評価をいただきました。今後は、学生自身が理念を内面化し、自らの言葉で語れるような教育設計をさらに工夫してまいります。
2. Vision Craft などの学科横断型プロジェクトは、創造力・協働力・課題解決力を育む先進的な取り組みとして評価されました。また、放送業界の技術多様化や業務委託の進展に対応するため、単位制を活用した柔軟な履修設計や、認知の浅い分野への人材供給にも力を入れてまいります。
3. 学校運営に関しては、教職員のワークライフバランスやメンタルヘルスケア体制、柔軟な休暇制度の検討など、働きやすい環境づくりへのご助言を受け、勤怠管理や目標管理シートの導入だけでなく、IT化や人員配置の見直しも含めて持続可能な体制を検討してまいります。
4. 学生支援では、通信制高校出身者や留学生など多様な背景を持つ学生への対応強化が必要とのご指摘を受けました。特に留学生については、日本語能力の差や学科ごとの言語要求、アルバイトとの両立などの課題があり、授業内での日本語教育や企業連携、日本人学生との交流促進など支援体制の整備を進めてまいります。ミャンマーからの留学生増加にも、背景を踏まえた対応方針を整備してまいります。
5. 教育環境については、校舎の老朽化や災害リスクへの対応として、長期的な設備更新計画の必要性をご指摘いただきました。PFOS 泡消火剤流出事案への対応は評価されましたが、防災体制は「整備」ではなく「機能」を基準に見直すべきとの助言を受け、BCPの改定と防災訓練の実施を進めてまいります。
6. また、卒業生との連携や地域企業との交流、広報戦略への活用など、社会・地域貢献に関するご提案も今後の施策に活かしてまいります。学生の居場所づくり、卒業後の関係構築、語学力やリスキングへの対応など、教育の本質に関わるご助言は今後の運営において重要な指針となります。

以上